

横浜港南台教会の入門講座に集まっていた方々が、新蕎麦を振舞うと言われた山本牧師を訪ねて岩村田教会に出掛けたのは20年ほど前の、昔のことでしょうか。十数名の教会員が新幹線で行って、無言館、内村鑑三記念の石の教会を見学し、途中、山本牧師の打った蕎麦を食べ、美味しいと喜んだということが、語り草になっています。その時のメンバーの一人であったK子さんは、今ではご自身が蕎麦を打ちます。

山本牧師は夫の友人ですが、隠退されて小海線(小諸～小淵沢)の佐久穂町に住まわれました。長野県に出掛けると、幼い頃、一茶を歌った ♪ 信州信濃の山奥の、そのまた奥の一軒家 ♪ との文言がいつも口を突いて出てくるのです。標高 850mの佐久穂町も私にとってはそんなイメージがあります。私たちは軽井沢方面に出掛けた時はお訪ねしてきました。山本牧師は二年前に亡くなられ、今は愛子夫人が一人で住んでおられます。愛子夫人は私とは大学の同期で、学生 YWCA の友人です。今回もお電話すると、喜んでくださったので、さっそくK子さんと共にお訪ねしました。

愛子夫人のお宅はログハウスで、木の香りがします。広い窓からは庭の草花がよく見えて、自然を満喫できます。彼女はここでの生活をゆったりと楽しんでおられました。独り住まいながらも、窓越しにご近所の方々の姿が見えて、寂しくないと言われます。介護保険を利用し、ヘルパーを頼み、また、三人の娘たちが連絡を取り合って訪ねてくるから、不便はないとのことでした。気丈です。



私は「お昼にはお蕎麦をご一緒しましょう。どこか美味しいところを案内してね」とあらかじめお願いしていました。彼女は「信州ひすいそば」のお店「かわせみ」に案内してくれました。この蕎麦は新品種(長野S8号)で、最近栽培が許され、佐久穂町ブランドの蕎麦を目指しているとのことでした。山本牧師も食べたことがないとのこと。薄緑色のさっぱりしたお蕎麦でした。とても美味しかったです。

話は尽きないものの、北軽井沢まで帰らなければなりません。再会を願いながら、佐久穂を後にしました。遠くに見える信州の山々は胸がジーンとなるほど青いのです。空気が違うのでしょうか。八ヶ岳を背にしなが、千曲川沿いに浅間山に向かいます。帰り道には浅間山がくっきりと見えました。

山荘に帰ると、K子さんがすぐに暖炉を燃やしてくれました。山本家の納屋にストーブ用の薪がたくさん積んでありましたが、K子さんも暖炉を燃やす準備をしておられました。バアッと、また、チラチラと燃える火は生き物のように何かを語りかけ、その火の色は心まで燃やすように輝きます。暖かさに、心が和みます。ここでしか味わえない贅沢なひと時にしばし、うっとりとなりました。

